

# 1 多様な教育、保育環境における幼児期にふさわしい生活とは

## — 預かり保育を利用する幼児の遊びから —

**事例の概要** 担任教諭は、預かり保育を利用している幼児の様子を見に行ったり、預かり保育士と情報共有したりしながら幼児理解につなげている。いつもは、鬼ごっこやリレーを繰り返し楽しんでいるが、預かり保育の時間に折り紙遊びにじっくり取り組むA児の姿から、学級の遊びの中でも自分のやりたいことに、じっくり取り組んでほしいという願いをもち、学級の遊びにも取り入れた。

### ～預かり保育での様子～



担任 教諭の見取りや思い

A児は、預かり保育の時間にじっくりと折り紙を楽しんでいるんだね。

この素敵な姿が学級でも発揮できるといいな。

担任



預かり保育の時間にやっていた手裏剣の折り方を教えてくれる？

担任

### ～教育時間に学級で～



いいよ！

A児

### ～その日の預かり保育の時間に～

預かり保育士



張り切って遊ぶA児の姿が見られましたよ！



A児

聞いて♪今日〇組で、折り紙で手裏剣を作ったんだよ。楽しかったよ！預かり保育の時間で忍者ごっこやろうよ。

### ～その後、学級で～

担任



学級の友達と一緒に手裏剣作りを楽しめたので、満足感を味わったのではないかな。学級の友達と関わる経験を積み上げていきたいので、次は、学級の遊びでも忍者ごっこの環境を構成してみよう！



預かり保育での遊びを参考に、学級で忍者修行の環境をつくってみたけれど、A児は、仲間に入らなかった。

A児は、友達とごっこ遊びを一緒に楽しみたいという思いは、まだないようだった。今は、折り紙を友達と一緒に十分に楽しみ、満足することで安心感や意欲を育てている時期だったのかもしれない。

担任



## 預かり保育を利用する幼児の生活をどのようにしていくのか

### 環境の構成と援助

- ・預かり保育の時間は、一人一人が、無理なくゆったりとした環境の中で、やりたいことを実現することを大切にする。
- ・預かり保育士と担任教諭が連携し、それぞれの時間での幼児の育ちや姿を共有する。互いの時間の中で個々の実態を踏まえた保育を行うことで、園生活全体を通しての育ちにつながる。
- ・教育時間と預かり保育での遊びをつなげるという視点が効果的なことがあるが、経験や育んだ力がつながっていくという意識をもち、互いの保育に生かしていくことも大切である。

### 今後に向けて

- ・預かり保育を利用している幼児にとって、一日を通して幼児期にふさわしい生活（保育者との信頼関係の構築、興味・関心に基づいた直接的な体験を得られる、友達と十分に関わって展開する）となっているのか、預かり保育士も含む園の職員で評価する必要がある。
- ・園では、教育時間と預かり保育の時間との両方を通して成長していることを家庭へ発信し、保護者が安心して預かり保育を利用できるようにする。